取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

CROWN

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS　目次

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方

1-5. 燃料補給のしかた

1-6. 安全にお使いいただくために

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

さくいん

外観

ボンネット P. 181
ヘッドライト P. 107
車幅灯 P. 107
ワイパー P. 111
アウターミラー P. 39
BTO00AC001
方向指示灯 P. 97
方向指示灯 P. 97
フォグライト P. 110

ドア P. 21
補給口 P. 43
リヤウインドウデフォッガー P. 133
尾灯 P. 107
トランク P. 24
BTO00AC002
番号灯 P. 107
方向指示灯 P. 97
タイヤ
●ローテーション P. 177
●交換 P. 229

室内

シートベルト P. 32
ヘッドレスト P. 30
A
B
BTO00AC014
アームレスト P. 168
シフトレバー P. 94
フロントシート P. 28
グローブボックス P. 159
発炎筒 P. 215

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ドアロックスイッチ P. 21
ロックレバー P. 21
BTO00AC005
パワーウインドウ
スイッチ P. 41
ウインドウロックスイッチ P. 41

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

B

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、「チャイルドシートの取り付け」（→P. 67）をお読みください。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

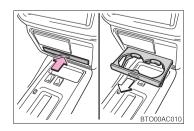
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

1-1. キーの取り扱い

1-2. ドア・トランクの開閉の しかた、ロックのしかた

1-3. シート、ハンドル、 ミラーの調整のしかた

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方

1-5. 燃料補給のしかた

1-6. 安全にお使いいただくために

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 マスターキー
2 スペアキー
3 キーナンバープレート

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 241）

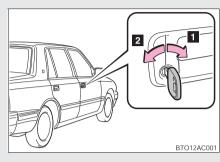
注意

■キーの曲がりなどを防ぐために

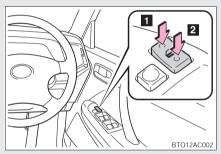
キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。

ドア（フロントドア、リヤドア）

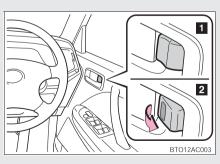
キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ キー

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

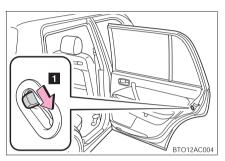
2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ドアのロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

チャイルドプロテクター（リヤ右側ドア）

施錠側にすると、リヤ席右側ドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤ右側席ドアを開けないようにできます。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■**事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ右側席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

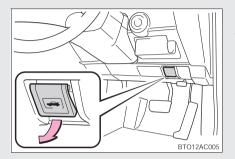
■**ドアを開閉するときは**

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

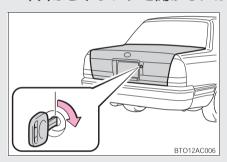
トランク

トランクオープナーやキーを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

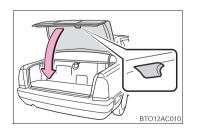
BTO12AC005

トランクオープナーを引いてトランクのロックを解錠する

■ 車外からトランクを開けるには

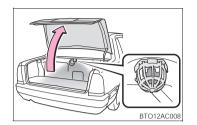
BTO12AC006

キーをまわしてトランクのロックを解除する

知識

■ トランクグリップ

BTO12AC010

トランクグリップを持ってトランクを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

■トランクライト

BTO12AC008

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はトランクを長時間開けたままにしないでください。

⚠警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

警告

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■トランクの使用にあたって

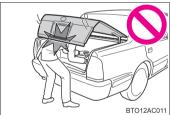
以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。

●トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

●トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

●トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

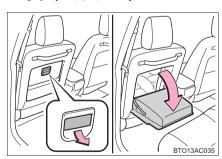
●トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

フロントシート

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）
4 腰部硬さ調整（運転席のみ）

オットマン機能付きシート*

助手席の背もたれ、ヘッドレストをお好みの状態にすることができます。

■ オットマンシート

レバーを引き上げ、背もたれの中央部を後方へ倒す

助手席はお好みの位置に調整してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■**シート調整について**

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

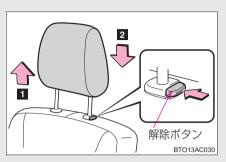
●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■**オットマンシートについて**

助手席をお好みに位置に調整するときに、手や足を挟まないよう注意してください。

⚠注意

■**シート調整について**

前後位置、リクライニング調整は、レバーを上限まで引いたままの状態で行ってください。中途の位置で調整すると、かみ合い部分が摩耗し故障の原因となります。

ヘッドレスト

上下調整

1 上がる

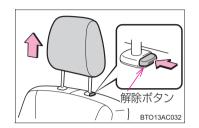
2 下がる

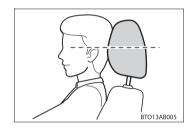
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

前後調整（フロントシート）*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

警告

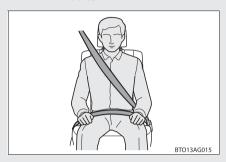
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレスト調整後は、ヘッドレストを押し込んで確実に固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し（フロント席のみ）、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

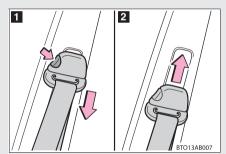
■ 着け方、はずし方

1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

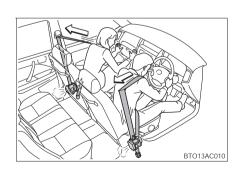
2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

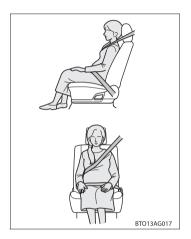
シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上､必ず正しく着用してください。(→P. 32)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 57)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 32)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、そのあとの衝突では作動しません。

■リヤシートベルト

シートベルトがガイドからはずれている場合は、ガイドに通して使用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトはひとつにつき一人で使用する
  お子さまでもひとつのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

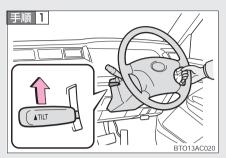
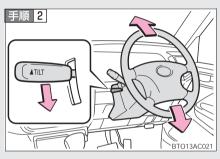
■シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを上げる。

レバーを上げたまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーから手を離し、ハンドルを固定してください。

警告

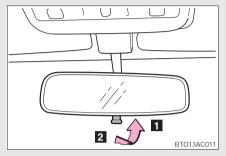
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

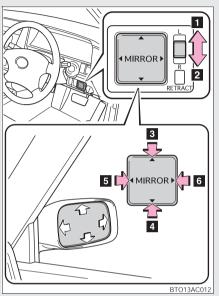
2 防眩時

⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

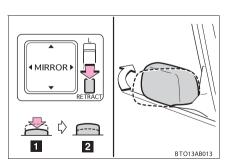
スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

3 上

4 下

5 左

6 右

※図はドアミラーで説明しています。

ドアミラーを格納するときは*

スイッチを押して、ドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

1 格納状態

2 復帰状態

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 133）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない（ドアミラー装着車）
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

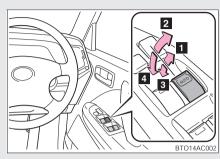
手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

BTO14AC002

1 閉める

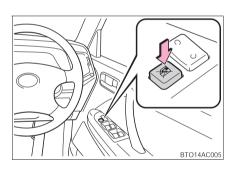
2 自動全閉 (運転席のみ) ※

3 開ける

4 自動全開 (運転席のみ) ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

BTO14AC005

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ドアガラスを開閉するときは

次のことをお守りください。

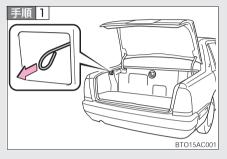
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

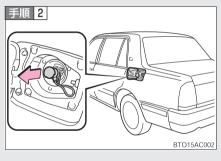
燃料補給口の開け方

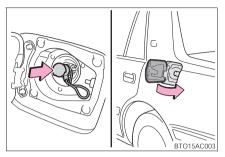
次の手順で補給口を開けてください。

■ 補給（充てん）する前に

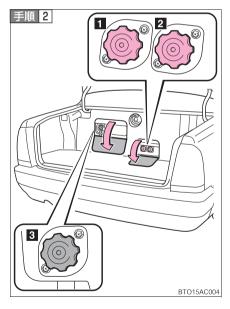
ドアと窓を閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

■ 補給口の開け方

補給口のフタを開ける

トランク内左側のレバーを引きます。

補給口のビニールキャップをはずす

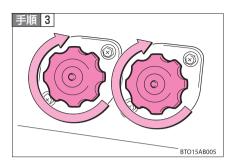
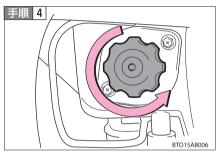
補給口を閉めるときは

補給口にビニールキャップを付けて、補給口のフタを閉める

燃料を補給するときは

手順 1 補給口を開ける（→P. 43）

カバーをはずす

1 燃料取り出しバルブ（メインバルブ）

2 燃料取り出しバルブ（リターンバルブ）

3 燃料充てんバルブ

燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）を右にいっぱいまでまわして締める

燃料充てんバルブを左にいっぱいまでまわして開く

手順 5 LP オートガス充てんガンを確実にセットし注入する

手順 6 燃料充てんバルブを右いっぱいまでまわして締める

手順 7 メインバルブ、リターンバルブをゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

手順 8 LP オートガス充てんガンをはずし、補給口を閉める（→P. 44）

知識

LPG 燃料冷却システムの操作方法 - 燃料冷却システム装着車

LPG 燃料冷却システムは、エンジンから燃料タンクにもどる燃料を冷却しタンク内燃料温度の上昇を抑制することで、タンク内圧の上昇を抑制します。これにより、オートガススタンドでの燃料補給（充てん）をしやすくします。燃料冷却にはエアコンの冷媒を利用しており、エアコンが作動しているときに燃料冷却システムが作動します。

■操作方法

エアコンを作動 * させることで燃料冷却システムを作動させます。
基本的に常時エアコンを作動させてご使用ください。ただし、春秋期などエアコンが必要ない季節は、燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させることで補給（充てん）できるタンク内圧まで低下させることもできます。また冬期はプロパン率の条件によってはエアコンを作動させなくても補給（充てん）できます。

燃料のプロパン率	夏期 30% 以上、 冬期 70%以上	夏期 30% 未満、 冬期 70%未満
夏期 （気温 25 ℃以上）	常時エアコンを作動させる必要があります。	
春・秋期 （気温 10 ～ 25 ℃）	燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させておいてください。エアコン作動後、およそ 3 時間以内に補給（充てん）できるようになります。	燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させておいてください。エアコン作動後、およそ 2 時間以内に補給（充てん）できるようになります。
冬期 （気温 10 ℃以下）	燃料の冷却能力が低下する為常時エアコンを作動させる必要があります。	エアコンを作動させなくても補給（充てん）できます。

* エアコンの作動方法
AUTO ボタンを押すことでエアコンは作動します。A/C ランプが点灯していれば風量切りかえボタン、および温度調整ダイヤルはお好みの室内温度になるように調節できます。

■補給（充てん）できるスタンドの条件

▶燃料冷却システム装着車

ポンプ加圧力が 0.4MPa 以上のスタンドで補給（充てん）できます。補給（充てん）の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給（充てん）には対応していません。

▶燃料冷却システム非装着車

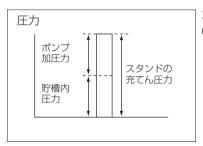
燃料のプロパン率が夏期 30%以下、冬期 70%以下、かつポンプ加圧力が 0.7MPa 以上のスタンドでのみ補給（充てん）できます。
補給（充てん）の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給（充てん）には対応していません。

		燃料冷却システム装着車		燃料冷却システム非装着車	
スタンドの条件		プロパン率			
		夏期 30%以下かつ冬期 70%以下	左記以外	夏期 30%以下かつ冬期 70%以下	左記以外
ポンプ加圧力	0.7MPa 以上	○	○	○	×
	0.4MPa 以上 0.7MPa 未満	○	○	×	×
	0.4MPa 未満	×	×	×	×

○：対応
×：非対応

■プロパン率とは

LPG 燃料中に含まれるプロパン成分の割合をプロパン率といいます。

■ポンプ加圧力とは

オートガススタンドの補給（充てん）装置のポンプ加圧力のことです。

■燃料タンク容量 (参考値)

94 L

保安基準により、タンク容量の 85%が最大補給（充てん）量となります。

■燃料の補給（充てん）について

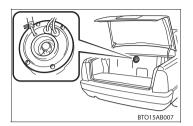
燃料が少なくなる前に、早めに補給（充てん）してください。

■燃料タンクの所有者表示について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とタンクの所有者が異なる場合は、タンクには所有者表示が義務付けられています。

■燃料タンクの検査について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、タンクおよびバルブには定期的な検査が義務付けられています。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■燃料計について

燃料計はトランク内にあります。
外周の数字がタンク内の燃料容量を%表示で表します。
燃料計はメーター内にもあります。
(→P. 101)

警告

■補給(充てん)について

●LP オートガス補給(充てん)は、LPG スタンドの係員におまかせください。また LP オートガス補給(充てん)時は、スタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。

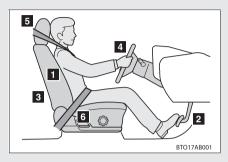
●指定燃料は LP オートガスです。指定以外の燃料を補給(充てん)しないでください。

注意

■補給(充てん)するときは

車両に入っている燃料のプロパン率と、スタンドの燃料のプロパン率が異なると補給(充てん)しにくくなることがあります。例えば、プロパン率 100%の燃料が入っている車両に、プロパン率 30%の燃料を補給(充てん)しようとすると、P. 47 の条件内でも補給(充てん)できないことがあります。
いつも同じスタンド(同じプロパン率)で補給(充てん)することをおすすめします。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 28）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→P. 28）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 28）
4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 37）
5 ヘッドレストの中央を耳の後方にする（→P. 30）
6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 32）

警告

■走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

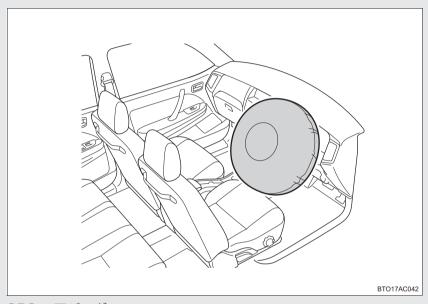
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグ
（運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）は数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

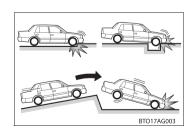
■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

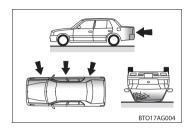
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

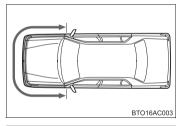
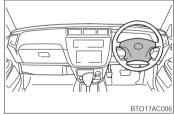
●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

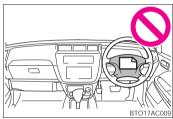
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- SRS エアバッグがふくらんだとき

- SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

- ハンドルのパッド部分が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない

- ドアやフロントガラスなどには何も取り付けない

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
  皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

BTO17AC030

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート

BTO17AC031

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、I に相当

▶ ジュニアシート

BTO17AC032

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き　UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1、IL2
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1、IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL2
	B1	ISO/F2X	IUF、IL2
	A	ISO/F3	IUF、IL2
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
Ⅰ（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 59)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 60）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する。

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0^+」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する。

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 61）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する。

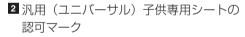
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

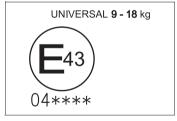
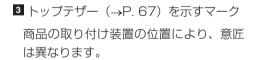
1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 67）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■子供専用シートを取り付けるとき

子供専用シートの種類によっては、子供専用シート背面と車両側シート背もたれの間に隙間ができるものがあります。その場合、ヘッドレストを取りはずしてから子供専用シートを装着してください。

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

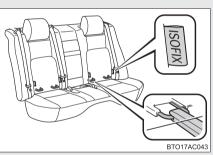
⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- ●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

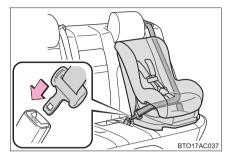
シートベルトによる取り付け
(→ P. 68)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 69)

リヤ外側シートの座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています)

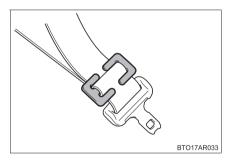
トップテザーアンカー
(→ P. 69)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する

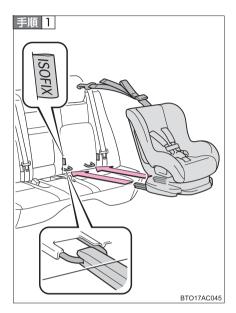
BTO17AC037

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

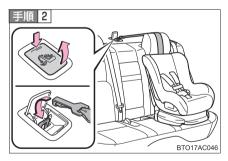
BTO17AR033

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用してシートベルトにゆるみが生じないようにしっかりと固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合わせてシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 84）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 94）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 98）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 94）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 98）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 94）

Stop & Start により、エンジンが停止します。

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジン スイッチを “ LOCK ” にする

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

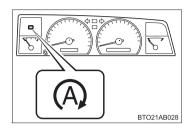
■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■Stop & Start

Stop & Start はエンジン スイッチを操作することなくエンジンを停止・始動させるシステムです。Stop & Start によるエンジンの停止中、Stop & Start 表示灯（緑色）が点灯します。（→P. 88）

警告

■発進するときは

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。また、エンジンがかかったままの停車中は常にブレーキペダルを踏み続けてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

■運転するときは

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になる他、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 252を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P. 94)

⚠警告

■運転するときは

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

●ハンドル、シート、アウターミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内をよごしたり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- ●換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- ●排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

- ●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いてるときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
  アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換してください。（→P. 229）

■**冠水路走行に関する注意**

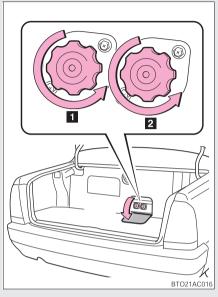
大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

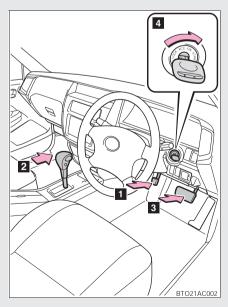
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンをかける前に

手順 1 燃料取り出しバルブのカバーをはずす（→P. 44）

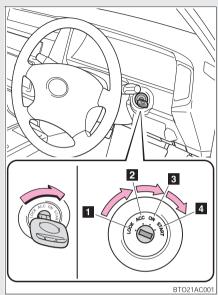
手順 2 メインバルブ（1）、リターンバルブ（2）をゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

■ エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジン スイッチを " ON " の位置までまわし、LPG 表示灯が点灯（点滅）後消灯したら " START " の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置

1 " LOCK "（OFF）

・ステアリングロックがかかります。
・シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 " ACC "

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 " ON "

すべての電装品が使用できます。

4 " START "

エンジンが始動できます。

■ エンジンがかからないときは

燃料過流防止弁が作動していることがあります。次のことを行ってください。

手順 1 燃料取り出しバルブのカバーをはずす（→P. 44）

手順 2 左側のメインバルブを右にいっぱいまでまわして締めてから、再度メインバルブを左に 1/3 ～ 1/2 まわす

右側のリターンバルブは開けたままにしておいてください。

手順 3 エンジンを始動する

エンジンが始動したら、左側のメインバルブを左にいっぱいまでまわして開けます。

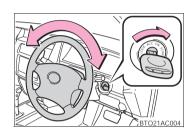
エンジンが始動しない場合の対処法は P. 239 を参照してください。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 キーを“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■エンジン始動時、エンジン スイッチを“ ON ”にして、LPG 表示灯が点滅したときは

→P. 227

■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは（燃料冷却システム装着車）

→P. 131, 228

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンが停止すると思わぬ事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

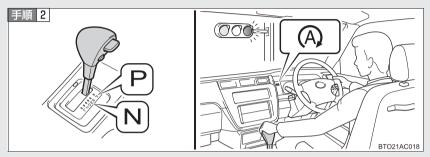
- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかしをしないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

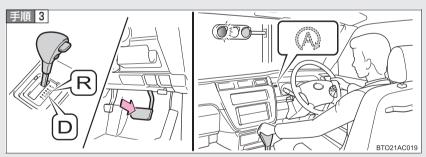
■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは（燃料冷却システム非装着車）

→P. 228

Stop & Start（アイドルストップシステム）

赤信号や交通渋滞で車両が停止中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジン スイッチを操作することなく、エンジンを停止・始動させるシステムです。

手順 1 車両を完全に停止させる

シフトレバーをＰまたはＮにする

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯（緑色）が点灯します。

ブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーをＤまたはＲにする

エンジンが始動し、Stop & Start 表示灯（緑色）が消灯します。

知識

■作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start が作動可能状態になります。

●エンジンが十分暖まっているとき

●バッテリー状態が良好であるとき

●いったん走行したあと

●方向指示灯、または非常点滅灯が点滅していないとき

●運転席ドア、またはボンネットが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●ブレーキブースター負圧が十分に高いとき

●エアコンが OFF またはエアコン負荷が低いとき

・エアコン装置のエバポレータ（熱交換器）の温度が約 6 ℃以下のとき

次のとき、Stop & Start によるエンジン停止を行わない場合があります。しばらく走行してください。

●エンジン始動直後のため、エンジンが十分に暖まっていないとき

●バッテリーが放電状態にあるとき

●エンジン冷却水温が80℃をこえたあと、最初のアイドル時間が約10秒に満たないとき

●エンジン スイッチを“ LOCK ”から“ ON ”にしたあと、約 180 秒に満たないとき

●Stop & Start によるエンジン始動のあと、消費した電力を回復しているとき（約 8 ～ 180 秒）

■アイドルストップ時間表示

→P. 102

■Stop & Start が作動しているときは

Stop & Start 作動中、次のような状態になることがありますが、異常ではありません。

●エンジン停止中、ハンドル操作が重くなる

●エンジン停止中、インストルメントパネル助手席側から“シュー”という音がする（燃料冷却システム装着車）

■Stop & Start によりエンジンを停止するときのシフトレバーの位置

●P で停止したときは、ブレーキペダルを踏まないでいると、エアコンのファン、リヤウインドウデフォッガーを停止し、バッテリーの放電量の増加を抑制します。

●N で連続して停止することはできません。エンジンを再び始動させたあと、N の位置で停止を行うには、シフトレバーを D にし、しばらくのあいだ走行する必要があります。

■Stop & Start の解除

Stop & Start によるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に始動する場合があります。

●ブレーキブースターの負圧が著しく低下したとき

●傾斜などで車両が動き出したとき

●ポンピングブレーキをしたり、ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだりしたとき

●運転席ドアを開けたとき

●運転席シートベルトをはずしたとき

●バッテリーの電力消費量が大きいとき

●エンジン停止を約 220 秒以上継続したとき

■Stop & Start 表示灯（橙色）が点滅したときは

システムの異常、またはスターターなどの交換時期が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■表示灯とブザーについて

Stop & Start によるエンジン停止中またはエンジン始動時、表示灯およびブザーが次のようになったときは、それぞれの対処方法に従ってください。

症状	原因	対処方法
Ⓐ（緑色）が点滅し、ブザーが鳴った	ブレーキペダルを踏み込む前にシフトレバーを操作した	シフトレバーをＰまたはＮにしてから、手順３を操作する（→P. 88）※
	エンジンがかかりきる前にアクセルペダルを踏んだ	アクセルペダルから足を離し、シフトレバーをＰまたはＮにしてから、手順３を操作する（→P. 88）※

※ 車両が動き出した場合には、ブレーキペダルの操作に関係なくエンジンが始動します。

■Stop & Start によるエンジン停止ができないときは

次の原因が考えられます。内容を確認の上、処置を行ってください。次の対処方法に従ってもエンジンが停止しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

状態	対処方法
エアコン使用時かつエバポレータ（熱交換器）の温度が約 6 ℃以上ある	エバポレータ（熱交換器）の温度が下がるまで、そのまましばらく走行を続ける
エンジンがオーバーヒートしている	オーバーヒートしたときは →P. 247
方向指示灯･非常点滅灯を点滅させたまま車両を停止した	方向指示灯･非常点滅灯を消灯して、シフトレバーを D または R にしてから、P にする
エンジン回転中､運転席ドアまたはボンネットを開けた	運転席ドアおよびボンネットを閉める
エンジン回転中､運転席シートベルトをはずした	運転席シートベルトを着用する
ボンネットを開けたままエンジン スイッチによるエンジンの始動を行った	ボンネットを閉め、いったんエンジンを停止した状態でエンジンを始動する

⚠ 警告

■坂道で停車しているときは

傾斜によって車両が動き出すと、エンジンが自動的に始動するため、アクセルペダルから足を離し、急発進に注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

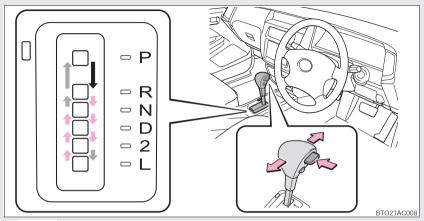
■Stop & Start を正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start が正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席シートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- すべてのドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはパーソナルライトのスイッチが DOOR のときにパーソナルライトが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはパーソナルライトのスイッチが DOOR のときにパーソナルライトが点灯しないとき

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

エンジン スイッチが“ ON ”のときで、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーボタンを押したまま操作します。

シフトレバーボタンを押したまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

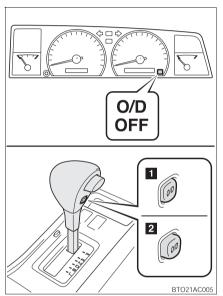
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	坂道走行
L	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

オーバードライブ（O/D）スイッチ

スイッチを ON にしておくとギヤが 4 速まで入り、燃費性能や静粛性を高めます。

OFF にすると 4 速に入らなくなり、下り坂での軽いエンジンブレーキや登り坂での不要な変速を防ぐ効果があります。

1 ON

2 OFF

OFF のときオーバードライブ OFF 表示灯が点灯します。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

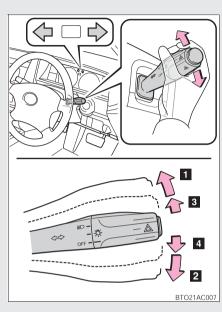
■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 240

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

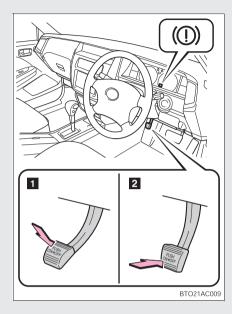
知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキペダルを踏み込みます。

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 223

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 120）の記載を参照してください。

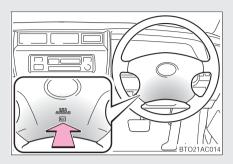
注意

■駐車するときは

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、車が動かないことを確認してください。

■走行前の注意

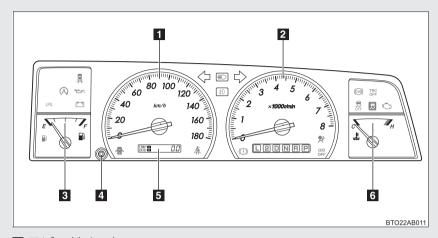
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの［ホーンマーク］周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 37）

計器類

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間／メーター照度調整表示の切りかえができます。

- トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。
- アイドルストップ時間表示中に押し続けると、アイドルストップ時間が 0 にもどります。
- メーター照度調整表示中に押し続けると、メーターの明るさを調整できます。

5 オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間／メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップA、トリップBの２種類で使い分けることができます。

● アイドルストップ時間

Stop & Start によってエンジンを停止した時間を表示します。

● メーター照度調整表示

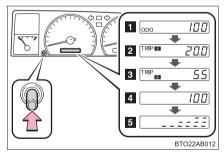
メーターの明るさを調整できます。

6 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

● 冷却水の温度が異常に高くなると警告ブザーが鳴ります。

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

1 オドメーター

2 トリップメーターA※1

3 トリップメーターB※1

4 アイドルストップ時間※1

5 メーター照度調整表示※2

※1 押し続けると0にもどります。

※2 押し続けるとメーターの明るさを調整できます。

知識

■メーター照度調整表示

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” で車幅灯が点灯しているとき、表示されます。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 247）

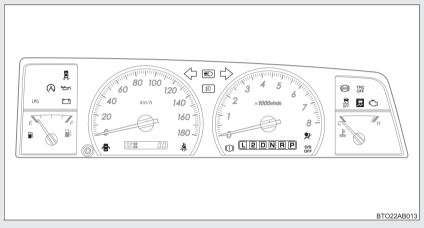
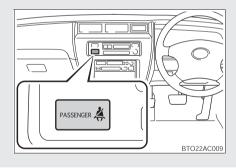
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

BTO22AB013

▶ センターパネル

BTO22AC009

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 97)

※
(点滅)
スリップ表示灯
(→P. 114)

ヘッドライト
上向き表示灯(→P. 107)

※
TRC OFF 表示灯
(→P. 114)

フォグライト表示灯
(→P. 110)

※
VSC OFF 表示灯
(→P. 115)

※
LPG 表示灯
(→P. 84, 227, 228)

シフトポジション表示灯(→P. 94)

O/D OFF
オーバードライブ OFF
表示灯(→P. 95)

(緑色)
Stop & Start 表示灯
(→P. 76, 88)

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 223)

(点滅)　(橙色)

※ 作動確認のためにエンジン スイッチを " ON " にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

2

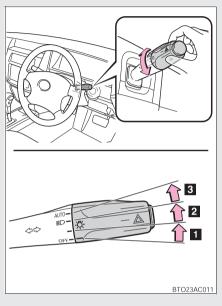
運転するときに

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

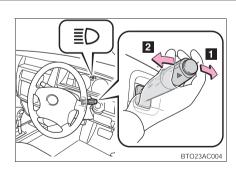
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ライトスイッチ

ヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（コンライト*）

ハイビームにするには

1 ライト点灯時、レバーを前方に押すと、ハイビームに切りかえ

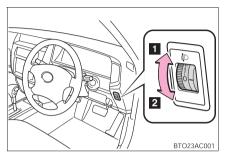
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

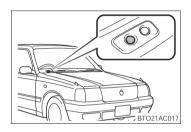
■ 目盛り設定の目安

<table>
<tr><th colspan="2">乗員と荷物の条件</th><th rowspan="2">ダイヤル位置</th></tr>
<tr><th>乗員</th><th>荷物</th></tr>
<tr><td>運転者</td><td>なし</td><td>0</td></tr>
<tr><td>運転者と助手席乗員</td><td>なし</td><td>0</td></tr>
<tr><td>全乗員</td><td>なし</td><td>1.5</td></tr>
<tr><td>全乗員</td><td>トランクルーム満載時</td><td>2</td></tr>
<tr><td>運転者</td><td>トランクルーム満載時</td><td>5</td></tr>
</table>

知識

■コンライトの作動条件（コンライト装着車）

エンジン スイッチが“ ON ”のときに使用できます。

■ライトセンサー（コンライト装着車）

センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■販売店で設定可能な機能（コンライト装着車）

ライトセンサーの感度の設定を変更できます。

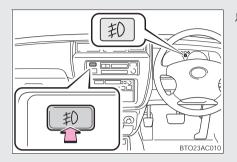
機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度調整	標準	高め

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

点灯／消灯

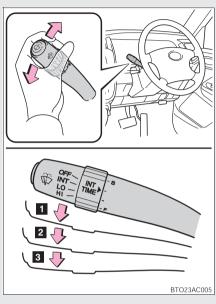
知識

■点灯条件

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

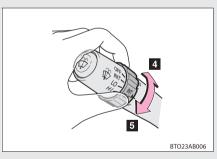
ワイパー＆ウォッシャー

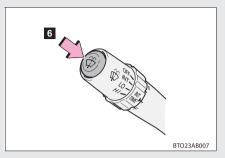
INTを選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

BTO23AC005

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

BTO23AB006

4 間欠ワイパーの作動頻度（減）

5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や、すべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

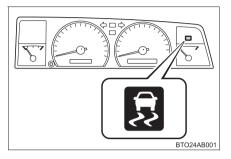
■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

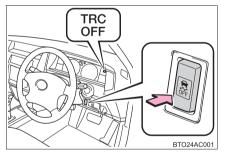
すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

TRC・VSC が作動しているとき

BTO24AB001

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに [OFF] を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

BTO24AC001

TRC を停止するには [OFF] を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRCとVSCを停止するには停車時に を押し３秒以上保持してください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジン スイッチを“ LOCK ”にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
  ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 259）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

● できるだけ荷物はトランクに積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むときは**

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・運転席足元
・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ 燃料
  - ・ エンジンオイル
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
  （タイヤについて：→P. 177）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・安全に作業できる場所で行う
・後２輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
・取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■燃料について

●LPG 車は外気温が低温になると燃料が十分に気化できず､始動性が悪くなる可能性があります。
寒冷地では、現地に着いたらできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。

●寒冷地では、低温でも気化しやすいプロパン率（燃料のプロパン割合）の多い燃料を販売しています。

■エンジン始動性の悪化を防ぐために

LPG 車は、外気温が低いとき（10 ℃以下）に短時間（1 分未満）の運転のあと、エンジンが暖まらないままエンジンを停止すると、排気ガス中の水分が点火プラグに付いて始動性が悪くなる可能性があります。
外気温が低くエンジンが冷えているときに短時間の運転を行う場合は、次のいずれかを行ったあとでエンジンを停止してください。

●1 分程度、運転またはアイドリングをする

●10 秒程度、エンジン回転数を少し高め（約 2000rpm）に保つ

暖機をするときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P または N にしてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル、急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップを付けたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷が付くことがあります。

●アルミホイール装着車は、タイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

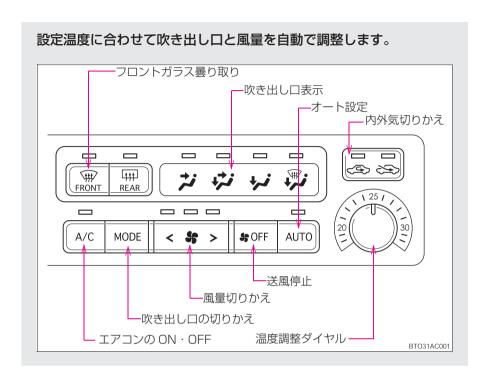
3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

エアコンが ON になり、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右側に、下げるときは左側にまわす

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

A/C を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右側に、下げるときは左側にまわす

■ 風量をかえるには

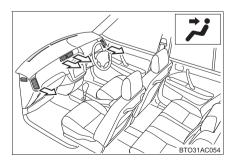
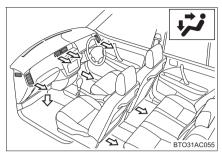
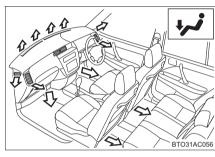
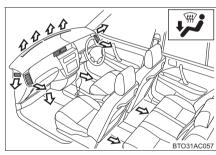
の＞（増）か＜（減）を押す

風量は 3 段階に調整できます。

送風を止めるときは を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

MODE を押す

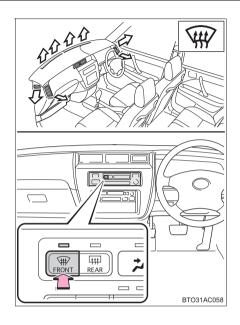
スイッチを押すたびに吹き出し口が切りかわります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわり、選択した側の表示灯が点灯します。

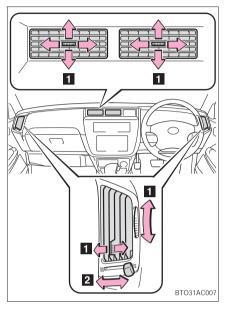
フロントガラスの曇りを取るには

を押す

エアコンが自動的に ON になります。

プラズマクラスター® を使うには

の>（増）か <（減）を押してファンを作動させる

ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスターが作動します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 左右吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

次のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切りかえスイッチを内気循環にすると効果的です。

●長時間内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃以下のとき

エアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調整ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■燃料冷却システムについて（燃料冷却システム装着車）

●走行中、LPG 表示灯が点滅したときは、自動的に燃料冷却システムが作動します。燃料冷却システムが作動すると、エアコンが OFF でも自動的にエアコンが作動し、送風されます。

●エンジン スイッチを“ LOCK ”にしたときや、エアコンを停止したときにインストルメントパネル助手席側から“シュー”という音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。“シュー”という音はしばらく聞こえることもあります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■プラズマクラスター® について

●運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスター® について

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

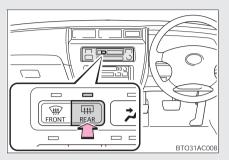
●運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中 (Stop ＆ Start 作動中を除く) はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

ON ／ OFF

押すごとに ON ／ OFF に切りかわり、作動中はインジケーターが点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーター*は、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

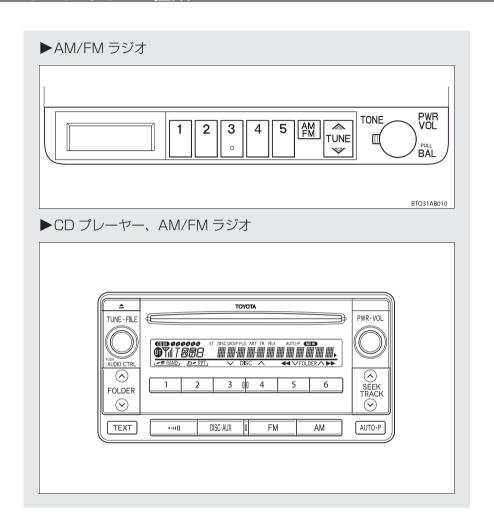
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオ＊の種類

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方（AM/FM ラジオ）	P. 136
ラジオの使い方（CD プレーヤー）	P. 138
CD プレーヤーの使い方（CD プレーヤー）	P. 140
MP3/WMA ディスクの聞き方（CD プレーヤー）	P. 145
快適に聞くために（AM/FM ラジオ、CD プレーヤー）	P. 152

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

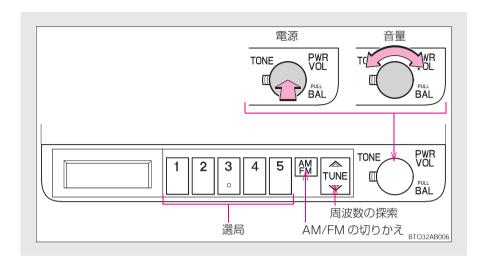
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲みものなどをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方（AM/FM ラジオ）

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 の“∧”（高い周波数）または“V”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

“ピッ”と音が鳴るまで押すと、自動で受信可能な周波数を選択します。

手順 2 記憶させたいスイッチを“ピッ”と音が鳴るまで押す

 ～ を押します。

知識

■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 ～ 5 に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

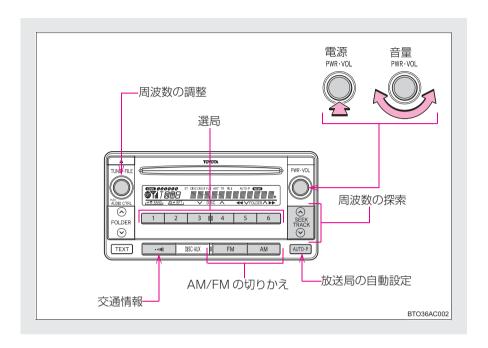
アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

ラジオの使い方（CD プレーヤー）

電源
PWR・VOL
音量
PWR・VOL
周波数の調整
選局
周波数の探索
AM/FM の切りかえ
放送局の自動設定
交通情報
BTO36AC002

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1

をまわす、または

の“∧”（高い周波数）側、または“V”（低い周波数）側を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ［1］〜［6］を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

AM・FM 各６局まで記憶させることができます。

■ 自動設定

［AUTO·P］を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する

を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■交通情報について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのときを“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を変更することができます。

●を押して、ラジオを受信しているときは、

・

・

～ 6 ・ AUTO·P を操作しても周波数は切りかわりません。

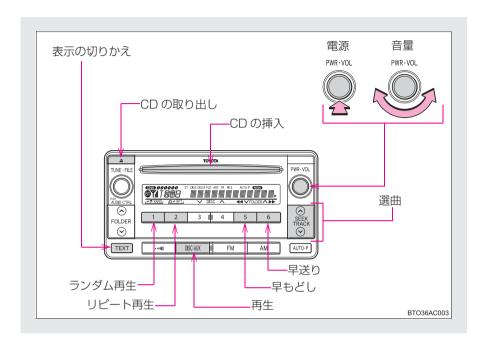
■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 ～ 6 に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

●放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

CD プレーヤーの使い方（CD プレーヤー）

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

⏏ を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

SEEK TRACK の “∧”（次曲）側、または “V”（前曲）側を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどしするときは 5 （◀◀）を、早送りするときは、6 （▶▶）を押し続ける

リピート（RPT）再生する

2 （RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

1 （RAND）を押す

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲順および経過時間→ CD タイトル→曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を長押しすることにより、13 文字目以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 [1]（RAND）または [2]（RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・キズ・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは再生できません。

■CD プレーヤーの保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

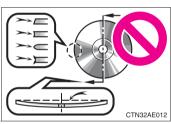
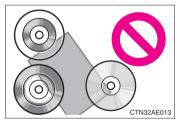
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD、アダプター

次のような CD を使用しないでください。
また、8cm CD アダプター・DualDisc・プリンタブルディスク（ラベル面印刷に対応したディスク）も使用しないでください。
使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

● 直径 12cm または 8cm の円形以外の CD

● 低品質または変形している CD

● 記録部分が透明または半透明の CD

● セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

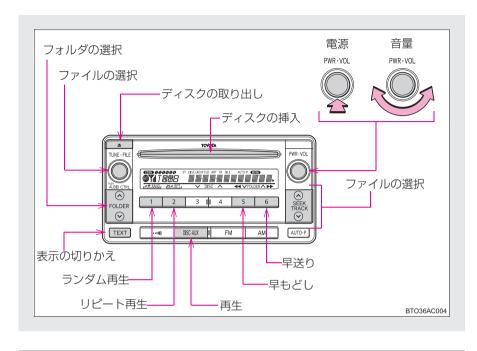
●CD 挿入口に CD 以外のものを入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

●一度に 2 枚以上の CD を挿入しない

MP3/WMA ディスクの聞き方（CD プレーヤー）

MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

→P. 140

早もどし、早送りする

→P. 141

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

■ 次フォルダを選ぶ

FOLDER の“∧”側を押す

■ 前フォルダを選ぶ

FOLDER の“V”側を押す

最初のフォルダにもどるには、FOLDER の“V”側を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けます。

ファイルを選択する

をまわして、または SEEK TRACK の“∧”(次ファイル)側、または“V”(前ファイル)側を押して、聞きたいファイルを探す

リピート(RPT)再生する

■ ファイルをくり返して再生する

2 (RPT)を押す

■ フォルダをくり返して再生する

2 (RPT)を“ピッ”と音がするまで押し続ける

ランダム(RAND)再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する

1 (RAND)を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する

1 (RAND)を“ピッ”と音がするまで押し続ける

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間→フォルダタイトル→ファイル名→ディスクタイトル（MP3 のみ）→曲名→アーティスト名。

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
フォルダ番号・フォルダタイトル・ファイル名などが 13 文字以上の場合は、TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作しないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1（RAND）または 2（RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・キズ・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

3
室内装備の使い方

■CD プレーヤーの保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■ディスクをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

ディスクが傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

- 対応規格
  MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
- 対応サンプリング周波数
  MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
  MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
- 対応ビットレート
  MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
  MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
  ※ VBR に対応しています。
- 対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
　WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
　32、44.1、48 (kHz)
・対応ビットレート
　Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
　Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
　※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3/WMA ファイルの再生い使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。

CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは次のとおりです。

・ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：IS 09660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について

MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 ".MP3" または ".wma" が付いたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3/WMA の再生について

MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について

MP3/WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子が付いていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

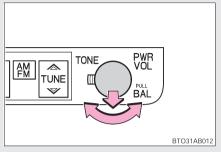
・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA　は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

⚠注意

■**使用できない CD、アダプター（→P. 143）**

■**CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 144）**

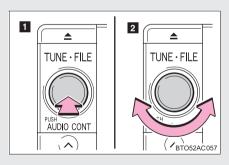
快適に聞くために

▶AM/FM ラジオ

ツマミを手前に引いてから、左右にまわす

左側にまわすと助手席側、右側にまわすと運転席側のスピーカーの音量が大きくなります。

ツマミを左右にまわす

左側にまわすと低音が強調され、右側にまわすと高音が強調されます。

▶CD プレーヤー

1 TUNE·FILE PUSH AUDIO CTRL を押して、調整したいモードを表示させる

2 TUNE·FILE PUSH AUDIO CTRL をまわして、音質と音量バランスの設定を変更する (→P. 153)

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには（CD プレーヤー）

■ 調整モードの切りかえ

を押すごとに、次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → EQ

■ 音質・音量バランスの調整

をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

<table>
<tr><th>音質モード</th><th>表示</th><th>レベル</th><th>左にまわす</th><th>右にまわす</th></tr>
<tr><td>前後音量バランス</td><td>FAD</td><td>R7 ～ F7</td><td>うしろ側大</td><td>前側大</td></tr>
<tr><td>低音※</td><td>BAS</td><td>－５～５</td><td rowspan="2">弱</td><td rowspan="2">強</td></tr>
<tr><td>高音※</td><td>TRE</td><td>－５～５</td></tr>
<tr><td>左右音量バランス</td><td>BAL</td><td>L7 ～ R7</td><td>左側大</td><td>右側大</td></tr>
<tr><td rowspan="4">音場</td><td rowspan="4">EQ</td><td>OFF</td><td colspan="2" rowspan="4">右へまわす
OFF ⇄ 1 COMPACT ⇄ 2 SEDAN ⇄ 3 MINIVAN
左へまわす</td></tr>
<tr><td>1 COMPACT</td></tr>
<tr><td>2 SEDAN</td></tr>
<tr><td>3 MINIVAN</td></tr>
</table>

※ 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■音場調整について（CD プレーヤー）

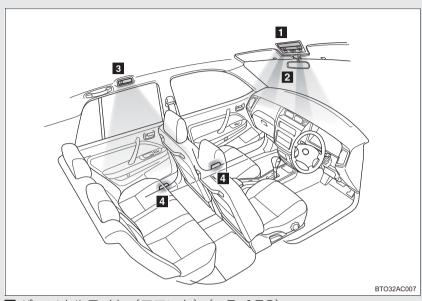
代表的な 3 つの室内空間 [コンパクト (小)・セダン (中)・ミニバン (大)] に適した音場パターンが搭載されています。
お客様の好みに応じて、OFF を含む 4 つの音場パターンから選択することができます。

■SRS Labs, Inc. の登録商標（CD プレーヤー）

本製品は AM ラジオモードを除き、SRS Labs, Inc. の SRS FOUCS、SRS TruBass®の技術を使用しています。
FOCUS、TruBass、SRS と ◉ 記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。FOCUS、TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

SRS FOCUS™ は、最適な位置に設定されていないスピーカーからの音像を耳の位置まで持ち上げて、違和感なく自然に聴くことができます。

SRS TruBass®は、どのようなサイズのスピーカーからでも、深く豊かな低音を再生することができます。

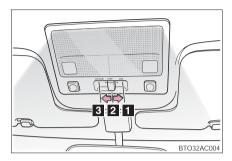
室内灯一覧

1 パーソナルライト（フロント）（→P. 156）

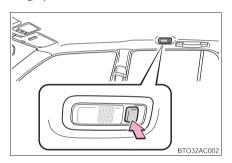
2 スポットライト（→P. 156）

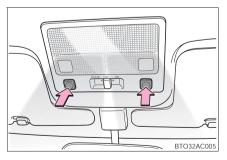
3 パーソナルライト（リヤ）（→P. 156）

4 ドアカーテシライト

パーソナルライト

▶ フロント

1 ON（点灯）
2 OFF
3 DOOR（ドア連動）

▶ リヤ

ON（点灯）／ OFF

スポットライト

ON（点灯）／ OFF

知識

■パーソナルライトについて

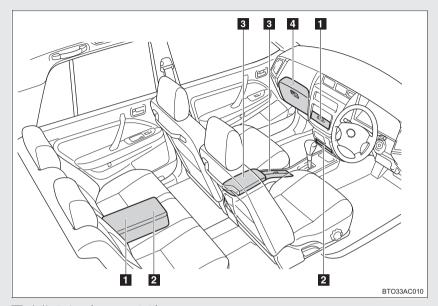
●フロントのスイッチを DOOR の位置にしておくと、フロントドア･リヤドアの開閉に連動してフロント・リヤともに点灯・消灯します。

●フロントのスイッチが ON のときは、リヤのスイッチの ON ／ OFF に関係なく、リヤも点灯します。（リヤは、リヤのスイッチが ON のほうが、少し明るくなります）

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止時は長時間点灯しないでください。

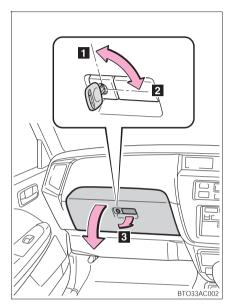
収納装備一覧

1 小物入れ（→P. 162）
2 カップホルダー（→P. 161）
3 コンソールボックス（→P. 160）
4 グローブボックス（→P. 159）

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

1 キーで解錠
2 キーで施錠
3 開ける（レバーを引く）

知識

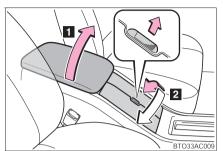
■グローブボックスライトについて

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開けるとライトが点灯します。

警告

■走行中の警告

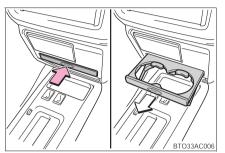
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

1 フタの横側を引き上げる
2 ツマミを助手席側に押す

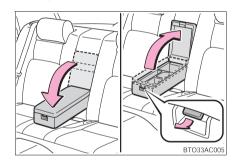
警告

■走行中の警告

コンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

カップホルダーを押す

▶ リヤ

アームレストを倒し、レバーを引いてフタを開ける

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外の物を置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

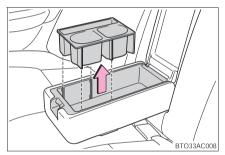
■使わないときは

フロントは、カップホルダーを必ず収納してください。
リヤは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーやフタに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ フロント中央部*

ツマミを引いて開ける

▶ アームレスト内

カップホルダー部を上に引き抜く

取り付けるときは、溝に合わせて押し込みます。

⚠ 警告

■走行中の警告

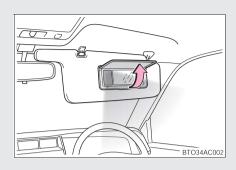
小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していた物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー＊

カバーを開けるとライトが点灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止時は長時間点灯しないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

時計

1 “時” を調整する（H）

2 “分” を調整する（M）

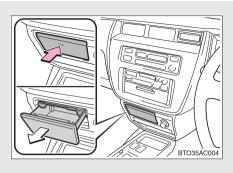
3 “分” を 00 にする※（:00）

※（例） 1:00 〜 1:29 → 1:00
1:30 〜 1:59 → 2:00

知識

■時刻が表示されるとき

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

灰皿

灰皿を押す

取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま引き出します。

警告

■使用後について

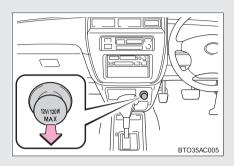
フロントは、灰皿を必ず閉じてください。
リヤは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いた灰皿やフタに体があたったり、中のものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■出火を防ぐために

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10 A (最大消費電力 120 W) 以上の電気製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト

倒して使用します。

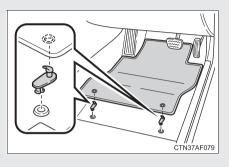
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

CTN37AF079

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

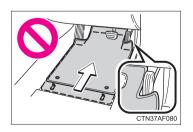
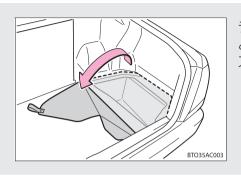
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

CTN37AF080

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

清掃用具入れ

ラゲージマットの右側をめくると、中に清掃用具などを入れるスペースがあります。

知識

■停止表示板の収納について

清掃用具入れに停止表示板を収納することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 自動洗車機に入れる前に、車両の補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 車両前側から洗車してください。ドアミラー装着車は、ドアミラーを格納してください。また走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。また、洗車の前に補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイールの保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは極力、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
(→P. 32)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤーをぬらさないでください。(→P. 52)
  電気的不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・ シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとに行ってください。

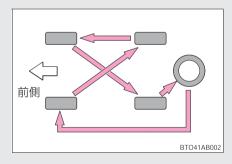
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

BTO41AE001

タイヤの空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm²)]
	前後輪
195/65R15 91S	220（2.2）
195/65R15 91H	

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤの保管について

タイヤを車両からはずして保管する際は、ビニール袋に入れるなどして、水や直射日光を避けて保管してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

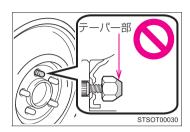
- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- タイヤの破裂など、修理できない損傷を受ける
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。

注意

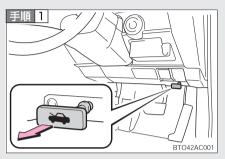
■走行中に空気漏れが起こったら

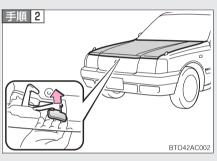
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてフックをはずし、ボンネットを開ける

知識

■**バッテリー端子をはずすときは**

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

BTO42AC003

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

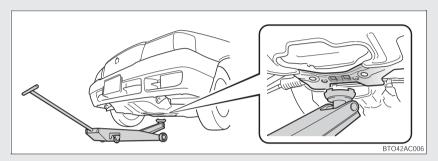
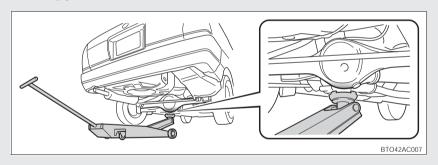
●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

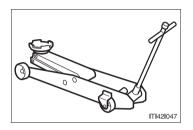
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。

●車に搭載されているジャッキを使用しない。車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない。

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない。

●平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする。
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない。

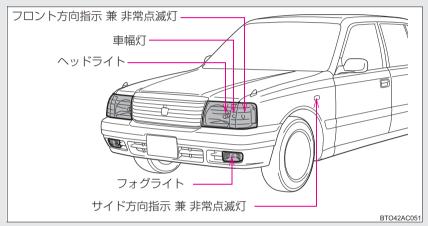
●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

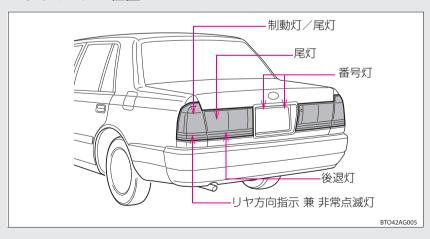
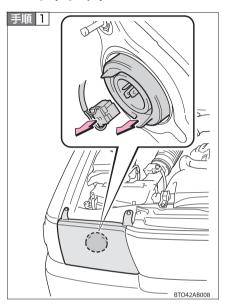
■ 電球の用意

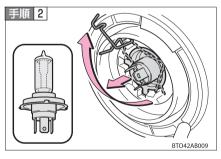
切れた電球のW（ワット）数を確かめてください。（→P. 260）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

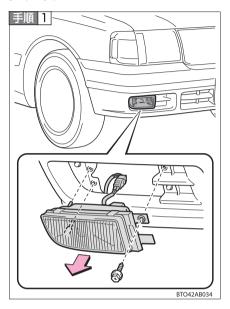
■ ヘッドライト

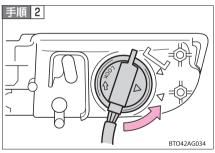
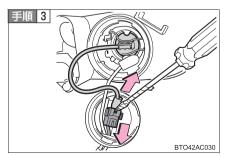
手順 1

コネクターとゴムカバーを取りはずす

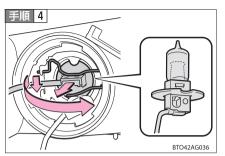
手順 2

止め金をはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

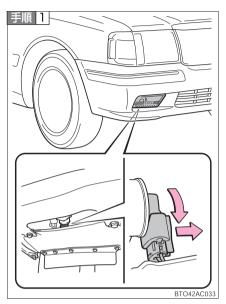
■ フォグライト

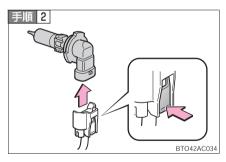
▶タイプ A

ライト本体をはずす

ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

カバーを取りはずす

図の位置にマイナスドライバーを挿し込んで、ソケットを取りはずす

傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

止め金をはずし、電球を取りはずす

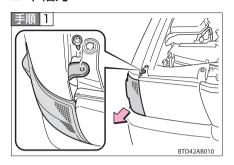
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶タイプB

ソケットを取りはずす

フロントバンパー下側のスキマから作業を行います。

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

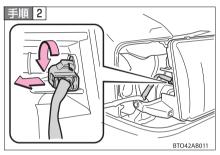
■ 車幅灯

手順 1

フロント方向指示 兼 非常点滅灯のライト本体をはずす

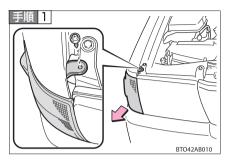
ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

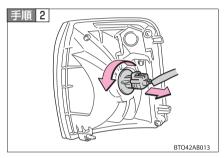
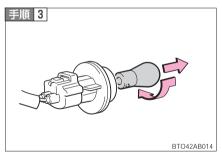
手順 2

ソケットを取りはずす

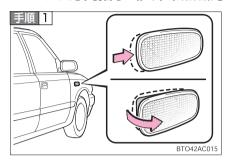
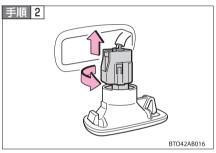
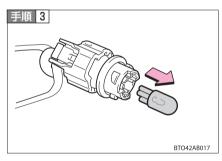
手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示 兼 非常点滅灯

ライト本体をはずす

ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

ソケットを取りはずす

電球を押しながらまわして取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

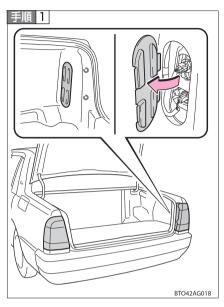
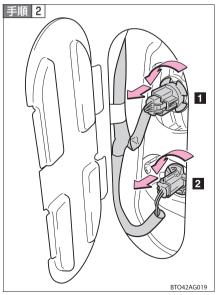
■ サイド方向指示 兼 非常点滅灯

ライト本体を車両前方にスライドさせて取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 制動灯／尾灯、リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

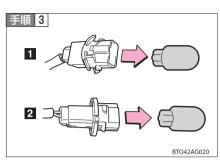
手順 1

トランクを開け、カバーをはずす

手順 2

ソケットを取りはずす

1 制動灯／尾灯

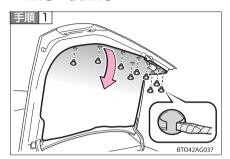
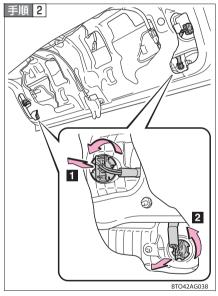
2 リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

手順 3

電球を取りはずす

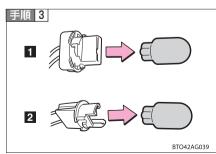
1 制動灯／尾灯

2 リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■尾灯、後退灯

トランクを開け、内張りをめくる

ソケットを取りはずす

1 尾灯

2 後退灯

電球を取りはずす

1 尾灯

2 後退灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

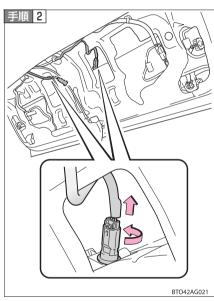
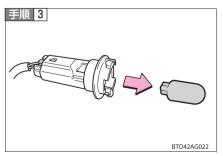
■ 番号灯

手順 1

トランクを開け、内張りをめくる

手順 2

ソケットを取りはずす

手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

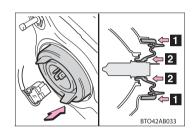
■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ハイマウントストップライト

知識

■ヘッドライトのゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

● レンズ内側に大粒の水滴が付いている

● ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■LED ハイマウントストップライトについて

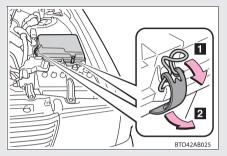
ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも不灯になったときは、トヨタ販売店で交換してください。

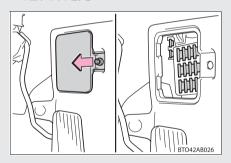
ヒューズの点検、交換

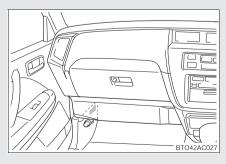
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

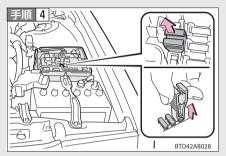
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

フック（1）を引いて金具（2）をはずしてから、カバーを持ち上げる

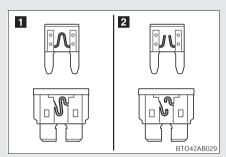
▶ 運転席足元

ノブを引いて、カバーを開ける

▶ 助手席足元

助手席足元のヒューズを交換するときは、部品の取りはずしが必要です。部品の取りはずしについてはトヨタ販売店にご相談ください。

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 202)で確認する

車の仕様により装着されていないヒューズもあります。

手順 4 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスに付いています。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

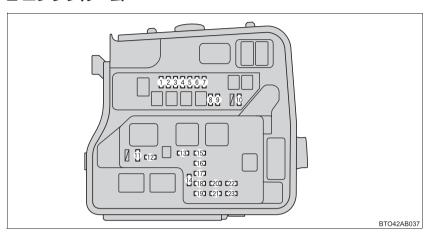
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

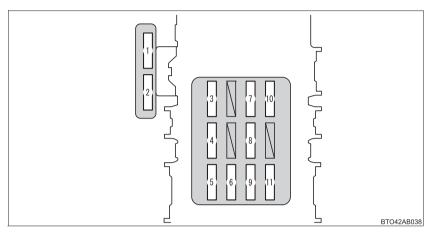
エンジンルーム内ヒューズの予備は、エンジンルーム内ヒューズボックスに付いています。

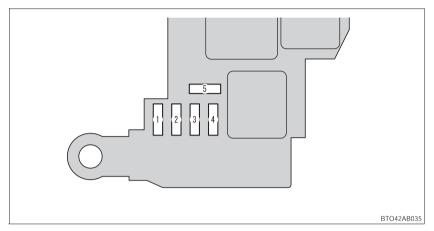
運転席足元ヒューズの予備は、エンジンルーム内ヒューズボックスのカバー裏側に付いています。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	OBD	10 A	ダイアグノーシスコネクター
2	ETCS	10 A	エンジンコントロール
3	AM2	20 A	イグニッション
4	INJ	20 A	エンジンコントロール
5	DOME2	10 A	メーター、エアコン
6	VSV	15 A	エンジンコントロール
7	FUEL PMP	30 A	燃料ポンプ
8	RADIO NO.1	15 A	オーディオ
9	FOG	15 A	フォグライト
10	EFI NO.2	7.5 A	エンジンコントロール
11	HEAD LH	10 A	左側ヘッドライト
12	HEAD RH	10 A	右側ヘッドライト
13	DOME	10 A	パーソナルライト、スポットライト、時計
14	SPARE	―	未使用
15	HAZ	15 A	非常点滅灯

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	EFI	15 A	エンジンコントロール、 Stop & Start
17	TAXI-B	10 A	―
18	ALT-S	5 A	オルタネーター
19	SPARE	―	未使用
20	SPARE	―	未使用
21	HORN	10 A	ホーン
22	SPARE	―	未使用
23	ECU-IG	5 A	Stop & Start

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
2	TAXI-ACC	7.5 A	ー
3	TAXI-TAIL	7.5 A	ー
4	IGN	10 A	エンジン、メーター、 SRS エアバッグ
5	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯、番号灯、メーター照明
6	DEFOG-I ／ UP	7.5 A	リヤウインドウデフォッガー
7	STOP	15 A	制動灯
8	TAXI-IG	7.5 A	ー
9	ECU-IG	7.5 A	シフトロックコントロール
10	IG1	15 A	後退灯、メーター
11	WIPER	20 A	ワイパー＆ウォッシャー

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	GAUGE	7.5 A	メーター
2	ST	5 A	スターター
3	A/C	10 A	エアコン
4	BACK-UP LP	7.5 A	後退灯
5	ACC	10 A	アクセサリー

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 186）

●取りかえても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

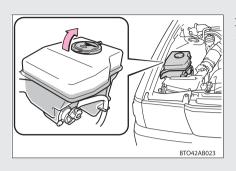
■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

ウォッシャー液の補給

不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

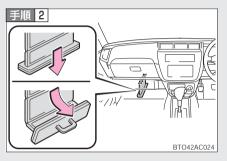
■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 清掃・交換のしかた

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

フィルターを取りはずす

インストルメントパネルの助手席側下部からフィルターを下に引き出します。

手順 3 フィルターを清掃する

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアフィルターの清掃について

エアフィルターは次の時期を目安に清掃してください。

清掃：3ヶ月ごと

■エアコンの風量が減少したときは

- フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。
- お湯による洗浄は行わないでください。フィルターは中性洗剤で洗浄したあと、水洗いするか、エアでゴミを吹き飛ばして洗浄してください。

■エアフィルターの交換について

適切な交換時期は、ご使用条件により異なります。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

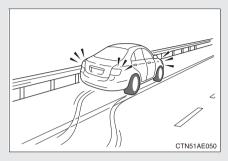
5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 214）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 215）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

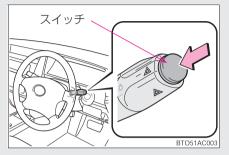
知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯

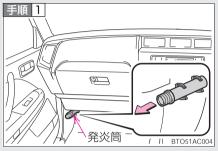
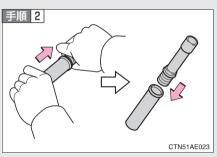
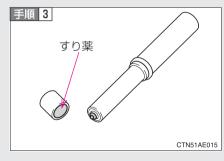
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

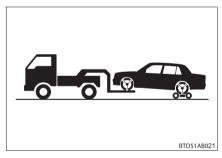
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

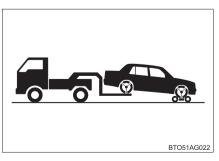
- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

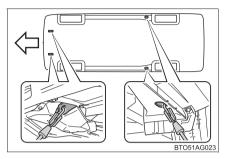
前向きにけん引するときは

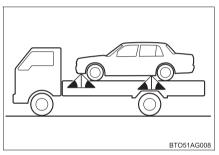
BTO51AB021

台車を使用して後輪を持ち上げる

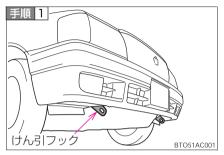
うしろ向きにけん引するときは

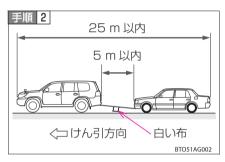
BTO51AG022

台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

BTO51AG023

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける

BTO51AG008

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

けん引されるとき

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方(30 cm × 30 cm)以上

手順 3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジン スイッチを“ ON ”にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 240

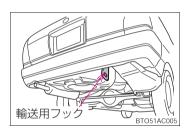
知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

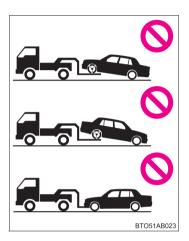
■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

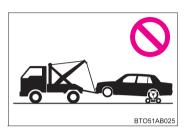
■けん引されるとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

■けん引中の運転について

●ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジン スイッチを“ LOCK ”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

- ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。
  - ・ワイヤーロープは使用しない
  - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
  - ・前進方向でけん引する
  - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、そのあと消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※）** ブレーキ液の不足 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※**ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキ液が不足しているときに車速が約 5 km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5 km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常 充電警告灯が点灯すると、リヤライト異常警告灯も異常の有無にかかわらず同時に点灯します。
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯・警告内容
	エンジン警告灯 エンジン電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	リヤライト異常警告灯 ・尾灯の異常 ・制動灯の異常
A （橙色）	**Stop & Start 表示灯** ・Stop & Start の異常 ・スターターなどの交換時期 （緑色の表示 →P. 88）
	スリップ表示灯 ・TRC システムの異常 ・VSC システムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。（→P. 114）

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 12 %以下）	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2）** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5 km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルトを非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが約 30 秒間断続的に鳴ります。そのあとも運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり約 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

LPG 表示灯が点滅したら（エンジン始動時）

それぞれの対処方法に従って処置し、表示灯が消灯するのを確認してください。(表示灯が消灯するまでの時間は気温やプロパン率などの条件によって異なります)

表示灯	表示灯名・表示内容	対処方法
LPG	**LPG 表示灯** **(エンジン始動時、エンジン スイッチを“ ON ”にして、点滅したとき)** ・気温が高い ・登坂走行などの高負荷走行後	エンジン スイッチを“ ON ”のまま待ち、LPG 表示灯が消灯してからエンジンを始動する※ ・LPG　表示灯が点滅中にエンジンを始動すると、始動時間が長くなることがあります。 ・しばらくしても、LPG 表示灯が消灯しない場合は、「LPG 表示灯（走行中、点滅したとき)」の燃料冷却システム非装着車の対処方法に従ってください。

※プロパン率の高い燃料を使った場合は、LPG 表示灯の点滅の頻度が高くなることがあります。なお、これは異常を示すものではありません。

LPG 表示灯が点滅したら、ただちに処置してください。(走行中)

それぞれの対処方法に従って処置し、表示灯が消灯するのを確認してください。(表示灯が消灯するまでの時間は気温やプロパン率などの条件によって異なります)

表示灯	表示灯名・表示内容	対処方法
LPG	**LPG 表示灯(走行中、点滅したとき)** LPG タンク内の温度が高くなっている	燃料冷却システム非装着車※1: 安全な場所に停車し、エンジンを停止する 停止後、10 分程経過したのち、エンジン スイッチを“ON”にして、LPG 表示灯が消灯していることを確認してから、エンジンを再始動する 燃料冷却システム装着車※1: ・エアコンが OFF の場合でも、表示灯が点滅すると同時に燃料冷却システムが作動するため、走行を継続し、LPG 表示灯が消灯することを確認する。(→P. 131)※2 ・エンジンを停止した場合は「LPG 表示灯(走行中、点滅したとき)」の燃料冷却システム非装着車の対処方法に従ってください。

※1 通常は表示灯が点滅することはありませんが、万一点滅した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

※2 燃料冷却システムの作動と同時にエアコンが作動します。

知識

■燃料冷却システムについて

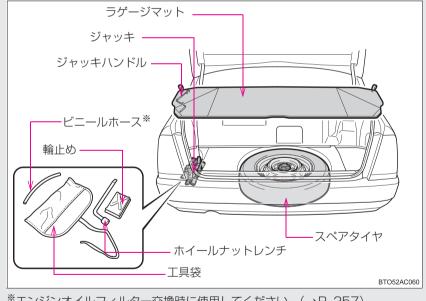
燃料冷却システムを作動させるためには、エアコンを ON にしてください。燃料冷却システムはエンジン始動と同時に作動させるとLPG タンク内の温度の上昇を防ぎます。

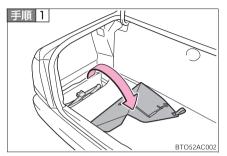
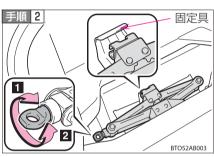
パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は、P. 177 を参照してください）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

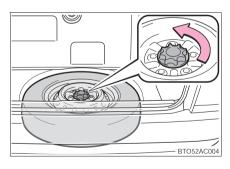
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキの搭載位置

※エンジンオイルフィルター交換時に使用してください。（→P. 257）

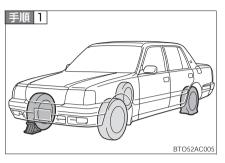
ジャッキの取り出し方

ラゲージマットの左側をめくる

1 締める

2 ゆるめる

格納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう、確実に固定してください。

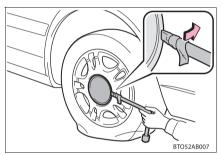
スペアタイヤの取り出し方

止め具を取りはずし、タイヤを取り出す

スペアタイヤを出し入れするときは、タイヤの両端をしっかりと持って出し入れしてください。（スペアタイヤ単体重量：約 20kg）

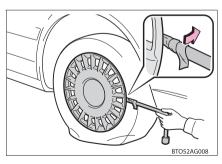
パンクしたタイヤの交換

輪止めをする

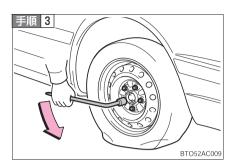
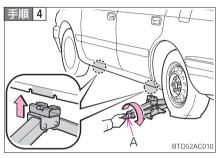
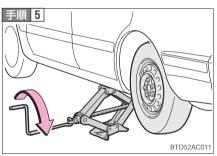
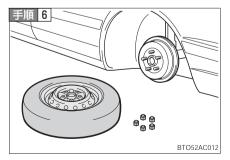
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

手順 2 ホイールキャップをはずす。

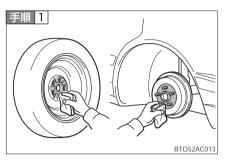
▶ センターオーナメント装着車

センターオーナメントをはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

▶ フルホイールキャップ装着車

フルホイールキャップをはずす

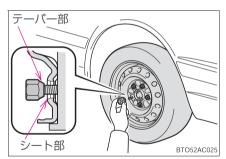
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

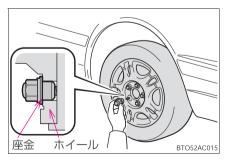
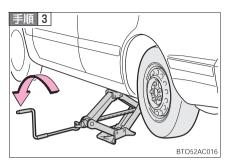
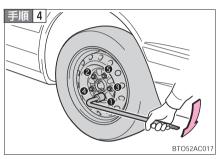
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面がよごれていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

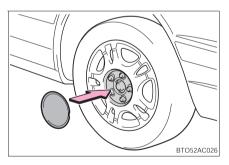
▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

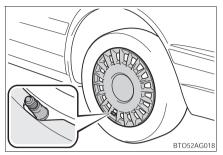
▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 ホイールキャップを取り付ける

▶ センターオーナメント装着車

センターオーナメントを取り付ける

▶ フルホイールキャップ装着車

フルホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてフルホイールキャップを確実に取り付けます。

手順 6 すべての工具・輪止め・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 259）

⚠ 警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない

●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない

●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる

●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない

●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない

●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない

●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

●車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠警告

■**タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→P. 180)

●約 1,000km 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■**スペアタイヤを収納するときは**

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指を挟まないように注意してください。

■**スペアタイヤを使用するときは**

お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ホイールキャップを取りはずすときは

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ホイール、ホイールキャップが損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 84）に従ってもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  補給してください。
- メインバルブ、リターンバルブが閉まっている可能性があります。メインバルブ、リターンバルブを開けてから、正しい手順（→P. 84）に従って、エンジンをかけてください。
- 燃料過流防止弁が作動している可能性があります。
  （→P. 85）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 242）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 242）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

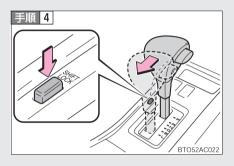
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを“ ACC ”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

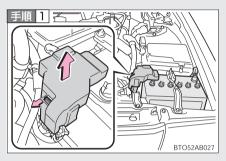
ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

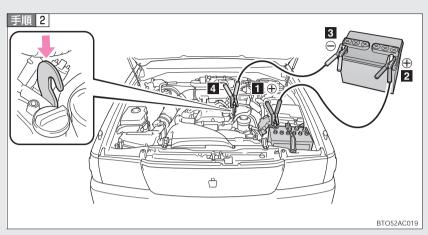
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 20)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

バッテリーの＋端子のカバーをはずす

ツメを引きながら、カバーをはずします。

ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 自車のエンジンをかける

エンジン警告灯が点灯していないことを確認してください。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの＋端子のカバーをもとにもどしてください。

手順 6 十分に暖機し、エンジンの回転数を確認する

エアコンが OFF のとき：

約 600 ～ 700rpm であることを確認してください。

エアコンが ON のとき：

約 600 ～ 800rpm であることを確認してください。

エアコンの ON・OFF を繰り返しても、すぐに上記回転数に落ち着くことを確認してください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないとき (Stop & Start 作動中を除く) は、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させせない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させせない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

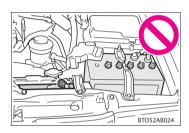
注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■バッテリーあがりのあと、エンジンを始動したときは

必ず十分に暖機し、エンジン回転数を確認してください(→P. 244)。エンジン回転数が異なっていると、エンジンのシステムが正常に作動せず、エンストする場合があります。

■バッテリー液の点検、バッテリー液の補充を行うときは

バッテリー液補充口のキャップをラジエーターの近くに置かないでください。キャップに付着したバッテリー液によりラジエーター部品が損傷するおそれがあります。

例えば、ラジエータータンク前面に貼り付けてあるエアシールスポンジの上にキャップを置くと、バッテリー液がスポンジを通してラジエータータンクに付着し、損傷させるおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

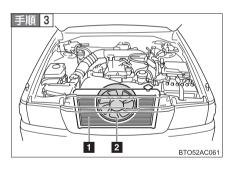
- 水温計（→P. 101）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

手順 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

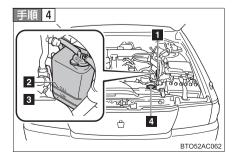
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

手順 3

エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

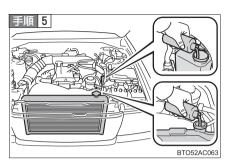
手順 4

冷却水の量がリザーバータンクの"FULL"（上限）と"LOW"（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 "FULL"（上限）

3 "LOW"（下限）

4 ラジエーターキャップ

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

手順 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- ●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

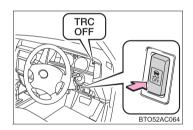
手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く

手順 3 後輪の下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは

を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

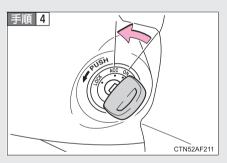
▶シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

エンジン スイッチを " ACC " にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを切るときは**

●ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

●キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様　6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
LP オートガス※1※2	94※3

※1 燃料冷却システム非装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

※2 燃料冷却システム装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスを使用できます。

※3 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

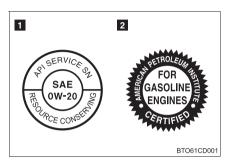
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	5.2	5.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

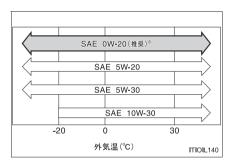
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

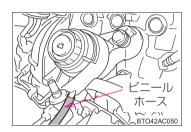
■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

知識

■工具袋に付属のビニールホースについて

エンジンオイルフィルターを交換する際は、工具袋に付属のビニールホースを使用してください。(→P. 229)

エンジンオイル・フィルターの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■工具袋に付属のビニールホースについて

- エンジンオイルフィルター交換時は、ホースから排出されるエンジンオイルが受け皿に落ちるようにしてください。
- ホースを使用した後は、耐油性のある袋などに入れてから、工具袋に収納してください。オイルが漏れ、お車がよごれる可能性があります。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正　スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　－35 ℃	7.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルードタイプ T-Ⅳ	7.2

交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	1.25

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	75 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 294 N (30 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
195/65R15 91S	220 (2.2)
195/65R15 91H	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト（バルブタイプ：H4）	60 ／ 55
	車幅灯	5
	フォグライト（バルブタイプ：H3） フォグライト（バルブタイプ：HB4）	55 51
	フロント方向指示 兼 非常点滅灯	21
	フェンダーマーカーライト*	LED ※
	サイド方向指示 兼 非常点滅灯	5
	リヤ方向指示 兼 非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	パーソナルライト（フロント）	8
	スポットライト	8
	パーソナルライト（リヤ）	5
	トランクライト	3.8
	ドアカーテシライト	3.8
	グローブボックスライト	1.2
	バニティライト*	1.5

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TSS10H	1TR-FPE	FR（後輪駆動）
TSS10		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

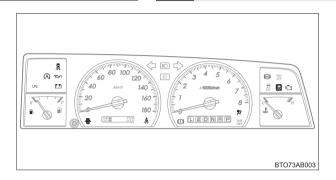
アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
O/D	オーバードライブ
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

症状	ページ	項目
タイヤがパンクした	P. 229	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 239	エンジンがかからないときは
	P. 242	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 240	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 247	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 247	オーバーヒートしたときは
キーを無くした	P. 241	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 242	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 21	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 250	スタックしたときは

警告灯が点灯・点滅した → P. 223 警告灯がついたときは

■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 P. 223		Stop & Start 表示灯（橙色） P. 225
	充電警告灯 P. 224		スリップ表示灯 P. 225
	油圧警告灯 P. 224		半ドア警告灯 P. 226
	エンジン警告灯 P. 225		燃料残量警告灯 P. 226
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 225		運転席シートベルト非着用警告灯 P. 226
(ABS)	ABS &ブレーキアシスト警告灯 P. 225	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯 P. 226
	リヤライト異常警告灯 P. 225		LPG 表示灯（点滅） P. 227, 228

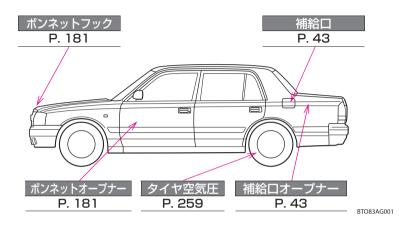
警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。（→P. 223）

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 86
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 95
	ブレーキを踏んだとき	P. 82

ガソリンスタンドでの情報

燃料補給や交換などの際に必要となる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量
(参考値)</td><td colspan="3">94 L※1</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td colspan="3">LP オートガス※2※3　P. 254</td></tr>
<tr><td rowspan="3">タイヤが冷えているときの空気圧</td><td></td><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td>195/65R15 91S</td><td colspan="2" rowspan="2">220 (2.2)
kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>195/65R15 91H</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td colspan="3">オイルのみ交換時 :5.2 L
オイルとフィルター交換時 :5.7 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td colspan="3">トヨタキヤッスルモーターオイル
・ SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20)
・ SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20)
・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)
・ SN10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

※1 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

※2 燃料冷却システム非装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

※3 燃料冷却システム装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスを使用できます。

ヤ-67

M　43081
01999ー43081
IB-2014年７月８日
2013年10月28日　初版
2014年７月15日　２版
クラウン　セダン